

町並み観光案内研修会開催

年々増えている観光客に「小江戸佐原」に来て良かった、また来てみたいと好印象を持ってもらう案内をすることが必要になっていきます。そこで千葉交通のガイド養成指導員の山根こと志さんをお招きした研修会が、「町並み案内ボランティアの会」と「町並みを考える会」の共催により開催されました。

一月二十三日(日)、正上穀倉で開催された研修会には、町並みを考える会、案内ボランティアの会を中心に五十数名が参加。講演を聴いて、バスガイドさんが、こんなに努力していたのかと思ひ知らされました。同時に今後の町並み案内に大変参考となる部

分がたくさんありました。お迎えする態度、説明の姿勢、指示する手、視線のあり方、マイクの持ち方と効果的な使用方法など、具体的な動作によって魅力的かつ印象的なものになることを理解しました。一番大切なことは、「何を伝えたいのか。」説明の要点をしっかり把握していること。次に観光客のニーズに答えられる柔軟性を持つこと。(例えば、観光客の年齢層、案内時間など。)すぐに役立つ講演でした。さすがはガイドの指導員とあって、人をそらさず引き付ける話術に、二時間があっという間に過ぎてしまいました。



講師の話に熱心に耳を傾ける参加者

今回の研修会で学んだことを生かし、お客様が「佐原名物のお土産と共に心にもお土産を持ち帰る。」案内が期待されます。

「新年会を合同開催」

研修会終了後、二千年の新年を迎え、会員相互の交流を兼ねた両会合同の新年会が六時より桶松で開催されました。

両会会員の参加により、各々の抱負や今後の活動について和気藹藹の中で意見交換が行われました。



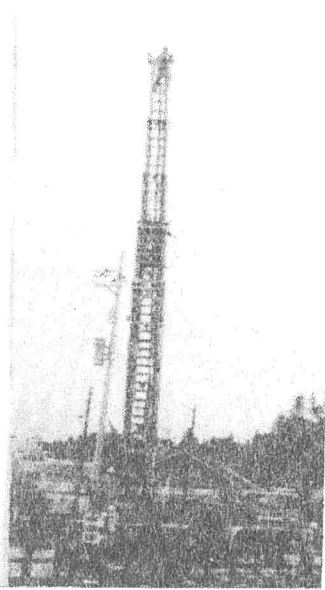
お雛様めぐり

老舗の土蔵には古くからのお雛様が残されているお宅が多い。三月の雛祭りになみなみ、忠敬記念館の催しに合わせ、各商店にもお雛様が飾られました。中村屋商店、並木仲之助商店、観光案内所、宮永酒店、福新呉服店、ラフレシア、忠敬茶屋の七店舗で見ることが出来ます。皆様も足を運んでみてはどうでしょう。

文化財を守る消火訓練

火が出たら通報、次に初期消火の徹底を

去る一月二十五日、伊能忠敬旧宅の火災を想定した消火訓練が佐原消防署により実施されました。これは二十六日の「文化財防火デー」にならんで行われたもので、訓練には消防車三台、はしご車、救急車各一台を配置した、大変大掛かりなものでした。実際に即して、「旧宅から出火」の電話通報により消防車が駆け付けました。小野川から水を汲み上げ、旧宅前や中庭に、また、はしご車の上からも放水。非常に寒い日で、びしょびしょになりながらの訓練は大変なものでしたが、消防士の皆さんのきびきびとした動作は、とても頼もしく思えました。



「放水」の合図で勢いよく噴き上がる水

あやめ祭のシャトルバス 帰りのバスは町並みへ

六月あやめシーズンに、駅から水生植物園まで運行されているシャトルバスは、年々利用者が増え、昨年七千人以上の観光客が乗車しています。大勢のお客様を是非町並み観光にも誘導したい。復路は町並みを走って欲しいという官民の強い要望が関東鉄道さんに通じ、今年からの実現に向けたコース試走と説明を関東さんが一月二十四日に実施。市職員・議員、町並みを考える会・案内ボランティアのメンバーがバスに乗車し、常務取締役の濱氏から説明を受けながら、コースなどを確認しました。往路は昨年と同じですが、復路は伝建地区内を走り、降車用の停留所を設けるとのことでした。このシャトルバスの運行により、水生植物園のお客様が町並みを通り、観光客の増加が期待されます。忙しい時期ではありますが、暖かい対応を心掛けたいと思います。

訓練の様子を見学して感じましたが、消防車の到着までの時間がとても長く思えました。その間どれ位燃えるのか不安があります。貴重な文化財です。一瞬の内に灰とならないよう、火を出さないことは当然ですが、もしもの時の初期消火の徹底を図ることが重要となります。今年はとても火災が多いようですので、皆さん、くれぐれも火の用心!